

天然ニホンウナギの資源生態に関する調査

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010142

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



天然ニホンウナギの資源生態に関する調査

中央水産研究所 浅海増殖部

研究の背景・目的

- ウナギ養殖は天然のシラスウナギに100%依存していますが、世界的にウナギ資源及び来遊するシラスが激減しており大きな問題になっています。その原因として、シラスの乱獲、河川環境の悪化、海洋環境の変動が挙げられています。
- ウナギ養殖業界からは資源の持続的な管理体制の構築、人工種苗生産技術開発が強く求められています。本調査は、ウナギの親養成や仔魚飼育における環境条件の改善を目指して、親ウナギの産卵生態や仔魚分布、餌等の根本的な生態解明を目的としました。

研究成果

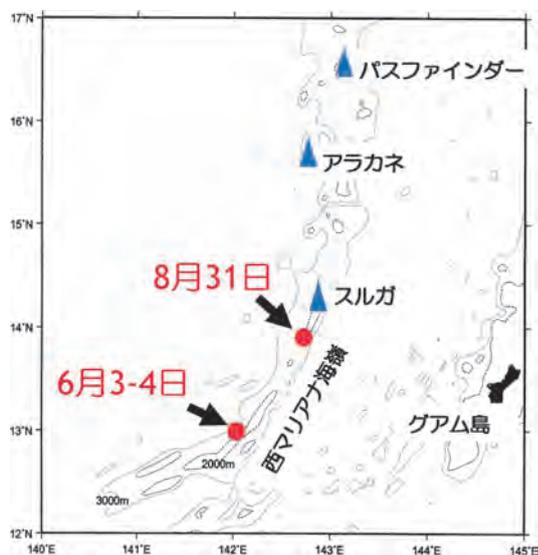
- ウナギ（ニホンウナギ）の産卵場と想定されている西マリアナ海嶺南部海域で中層トロールを行

い、世界で初となる成熟したウナギ成魚（ウナギ4個体、オオウナギ1個体）の捕獲に成功しました。耳石分析の結果、多くの個体が川と海を頻繁に往来していたことがわかりました。

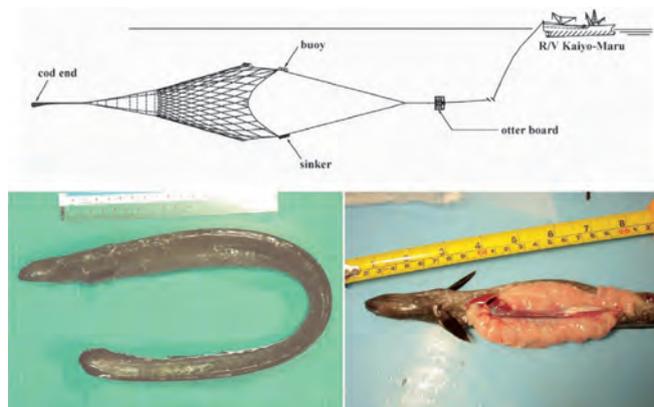
- 同海域におけるプランクトンネット調査によって、ふ化後数日の仔魚も採取することができ、仔魚が分布していた水深とそこでの水温も特定できました。

波及効果

- ウナギ成魚が生息している環境及びウナギの生理状況を解明することによって、より良質な人工親魚養成が可能となります。
- 天然仔魚が分布している環境を模倣することによって、人工種苗生産技術を向上させることができます。



調査を行った西マリアナ海嶺南部海域
ウナギを捕獲した地点 (●)



調査に用いた大型の中層トロール (上)
捕獲したウナギ成魚オス (下)



プランクトンネットで採取した
ウナギ仔魚 (体長約5mm)